



土浦日大に敗れ、引き揚げる八戸学院光星ナイン19日、阪神甲子園球場

# 光星4強ならず

▽準々決勝

土浦日大 0030050019  
 (茨城)  
 八学光星 0001100002

詳報12~14頁  
関連記事22、23頁



兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われていた第105回全国高校野球選手権大会で、青森県代表の八戸学院光星は19日、準々決勝で土浦日大(茨城)に2-1で敗れ、準優勝した2012年以来的の4強入りはならなかった。

光星は初戦の2回戦で完封勝利を飾った背番号1の左腕・洗平比呂が先発。だが、4イニング連続で先頭打者を出し、序盤は不安定な制球にも苦しんだ。三回には、三つの四死球でピンチを招き、2本の適時打を浴びて3点を先制された。六回からは、同じ2年生左腕の岡本琉奨に

自慢の打線は、テンポ良く投げる相手投手陣に抑え込まれた。四回と五回に、それぞれ内野ゴロの間に1点を返すにとどまった。三塁側アルプスタンドに陣取った応援団は、最後まで勝利を信じて大きな声援で後押しした。逆転かなわず敗れたものの、甲子園で躍進を見せたナインに惜しみない拍手を送った。(取材班)

継投したが、連打に守備のミスも絡み、スクイズで1失点。さらに連続四球で2死満塁とされ、走者一掃の三塁打を浴びて突き放された。後続にも適時打を許し、この回は5点を奪われた。青森大会から好投を続けてきた洗平と岡本の攻略され、九回には3番手の越智琉介がソロ本塁打を被弾した。